

4月4日（木）熊坂川の桜が咲き始めるなか、令和6年度加賀看護学校入学式が行われました。以下に、式辞、歓迎の言葉、誓いの言葉を全文掲載します。

学校長式辞

本日入学されます26名の皆様、ご入学誠におめでとうございます。ご家族、ご親族の皆様方におかれましても、心よりお祝いを申し上げます。

本年も、加賀看護学校において、高校を卒業されて引き続き入学される方や社会人を経て入学される方など多彩な新生を迎えられること、学校長として大変うれしくまた誇りに思います。

まず最初に高校を卒業してすぐに入学された方にお願ひがあります。高校生までは同じ年齢の気のあう友人だけで生活できたかも知れません。しかし、世の中には様々な人々がいろいろな境遇で必死に生活しています。是非とも当校で、価値観の融合を自ら図るようになしてください。むずかしいことを言っているわけではありません。「もっとも自分と違うな」と思う人と話をし、一緒にランチを取ってください。きっと大きな発見や驚きがあります。

これから皆さんは、看護という役割を通じて、人間を理解する仕事に就くことになるのです。今日までは保護者の庇護のもと、見えない手で守られていました。本日から看護学校の学生という立場になりますが、18歳はもう成人です。自分たちがこれから生きていく社会を理解し、人間の生命の尊さや、時には限界を知り、自分の中で何者になるかを見極める3年間です。社会人を経験した入学生の方々は、心の中で同意されたことと思います。

さて、ITが発達した現代、戦争や地震の画像は簡単に目にすることができます。ですが、コンプライアンスで縛られた今、血も見えなければ、包帯をした人さえ画像には映ることはありません。建物の破壊や瓦礫ばかりを見せられています。先日ゴジラー1.0を見ましたが、怪獣映画ですら人が殺傷される映像でも血が出るシーンは皆無でした。何とかハラスメントで不愉快な事象は、すべて上手く隠されているのです。皆さんは気がついていないかもしれませんが、ITとコンプラによって、人間社会でおきる災害や病気などのやっかいごと、すべてが、想像の中でしか感じられなくなっているのです。赤裸々な感情の発露や、人として避けられない生老病死について深く考えることなく、これまで成長されてきたかも知れません。この3年間で、初めて人が生きていくということはどのようなことか？を問い直されるかも知れません。人が人を助けること、その意味を考えてください。その上で、看護というのは人にとって崇高な行為であり、社会の中で重要な仕事、そして人と関わることは楽しいことだと実感してほしいのです。それらを学ぶ環境を用意することをお約束します。

本来式辞は、ことさらにおめでとう、3年後の看護師資格取得を頑張りましょう、というのがよいかもしれませんが。しかし私はあえて「不適切にもほどがある」をキーワードに皆さんと一緒に、今日という日に医療職の原点を考えたいと思いました。不快に感じられた方、なんとかハラスメントだと思われた方にはあらかじめ謝っておきます。

私ども加賀看護学校の教官は小回りが利くサイズという利点を生かして、皆様の看護師国家試験受験まで伴走します。伴走です。横について走ります。しかし、走るのはあなたです。ペースメーカーとして、コーチとしてついて行きます。時々障害物や逆風もあるでしょう。上手いかない時は是非頼ってください。安くはない授業料を保護者の皆様にご負担いただいております。高校の先生は、ともすれば皆さんを取り締まるほうだったかも知れません。ですが、職業校である加賀看護学校では皆さんを合格させるために努力するのが先生たちの仕事です。看護職という同じ職業人の仲間です。少し年季の入ったお友達と思ってください。ベテラン教員のおかげで本年の卒業生も九十五%以上の国家試験合格率でした。

最後になりますが、新入生の皆様とともに、いろいろなイベントでお話できることを楽しみにしております。改めまして、本日はおめでとうございます。

令和6年4月4日 加賀看護学校長



歓迎の言葉

暖かい日差しが降り注ぎ、春の訪れを感じる季節となりました。新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。またご家族の皆様にも、在校生一同心よりお祝い申し上げます。新入生の皆さんはこれから始まる学校生活に胸を躍らせる一方、不安な気持ちを抱えているのではないのでしょうか。私も1年前、今の皆さんと同じように、多くの期待と不安を抱え入学式を迎えたことが思い出されます。

入学すると、講義や校内実習を通して、専門知識や看護技術を学びます。様々な学びの後に技術テストがあります。技術テストはとても緊張しましたが、全員で合格しようとたくさんの練習を重ね、互いに鼓舞し合うことで乗り越えることができました。また臨地実習では、初めて患者さんのそばに行き緊張してしまい、うまくコミュニケーションが取れませんでした。あれほど練習した技術がうまく実施できず悩みました。しかし、1人で悩まず



実習メンバーに相談したり、もう1度練習を行うことで乗り越えることができました。看護の難しさを実感するとともに、もっと看護を学びたいと感じることができました。これから始まる3年間は楽しいこともあれば、看護の難しさや自分の未熟さを感じ、立ち止まることもあるかもしれませんが、私は立ち止まることは決して悪いことではないと思っています。自分の

未熟さを認め、さらなる努力によって自分を成長させることにつながるからです。また、皆さんには同じ志を持ち、励まし合い、助け合える仲間がいます。そして、私たち上級生や先生方もいます。皆さんは決してひとりではないということを忘れないでください。私たち上級生も皆さんと同じ志を持ち日々学習に励んでいます。学年は違いますが、同じ志を持った仲間として共に学び、共に成長できることを楽しみにしています。

最後になりましたが、皆様が充実した学校生活を送られますことをお祈りいたしまして、お祝いと歓迎の言葉とさせていただきます。

令和6年4月4日 在校生代表

誓いの言葉

暖かな日差しとともに、吹く風が心地よく感じられるようになった今日、私たち26名は加賀看護学校生として入学の日を迎えられたことを、大変嬉しく思います。本日は、私たちの為にこのような式を挙げて頂き、またご来賓の方々からは心のこもったご祝辞を頂き、誠にありがとうございます。私たち26名は、看護師になるという夢を叶えるため、期待に胸を膨らませながら本日の入学式を迎えました。

私は、高校1年生の夏の怪我をきっかけに看護師を目指しました。この時、サッカーの部活動の他に、国体やフットサルチームの試合が続いていた時期でしたので、それら全てに出場できなくなり本当に悔しい気持ちでいっぱいでした。しかし、看護師の方が怪我の状態をわかりやすく説明して下さり、また怪我のことだけでなく私の悔しい思いも親身になって聞いて下さいました。この経験から、身体のケアだけでなく心のケアもできる看護師になりたいと思い、この道を志すことを決意しました。



私たちはこれから3年間、多くのことを学んでいきます。その過程の中で、それぞれの壁にぶつかることもあるかと思いますが、そのような時は、今ここにいる仲間と助け合い、先生方、先輩方に助言を頂き、壁を乗り越え、仲間とともに成長していきたいと考えています。同じ看護の道を進む仲間と共に高め合いながら、それぞれの看護師になるという夢を叶えられるように、全力で邁進していくことを誓います。

令和6年4月4日 新入生代表